

## 年次報告書 2016

# 子どもたちの明日



© 高橋 智史

## 年次報告書によせて

36年前、「今日の子どもの幸せが明日の平和な世界へと繋がります」という目標を掲げて、幼い難民を考える会(CYR)は誕生いたしました。暗中模索の歩みではございましたが、長年にわたり活動を行うことができましたのも、一重にこの活動に参加し、ご協力くださる皆さま、お一人お一人のおかげです。「継続は力なり」と申しますが、今日まで有形無形の支援をいただけたからこそ、CYRはここまで発展できました。心より感謝申し上げます。

代表理事に就任して2年間が経過しましたが、この任期中、任務を無事果たすことができましたのも、たくさんの方々に支えていただけたからです。特に、国内でのボランティア活動、「みんなで布チョッキン」、バザーなどを通じて、継続的にCYRの活動をご支援いただきました方々には感謝しております。

2015年度はカンボジア事務所長、東京事務局長が交代した年でもありました。若い世代の新しい視野と鋭い洞察力で、現場での活動や東京事務局での実務が活性化されることになりました。特に、会の赤字削減に向けて前向きに取り組む姿勢には、私たち理事も刺激を受け、自ずと身が引き締まる思いです。

保育事業は、拡大しつつも、現実を踏まえて、着々とかつ慎重に進められています。一方で、織物販売では、累積した赤字という問題を抱えています。カンボジアの伝統工芸を優れた技能で再現し展示会に出展しながらも、何しろ高価な製品には買い手が付きにくく、在庫が事務局の倉庫に山積みとなって埋もれています。ひとつでも多くの織物売るために、皆様の知恵を貸していただけるようお願い申し上げます。

最後になりますが、今後ともCYRへのご協力をお願い申し上げます。



廣戸 直江

## 目次

年次報告書に寄せて・目次	2
活動概要	3
2015年度事業報告と2016年度事業計画	
I カンボジア保育事業	4
II カンボジア織物事業	6
III 日本国内事業	8
2015年度 数字とグラフで見る 幼い難民を考える会	
・2015年度決算・監査報告書・2016年度予算	9
・活動収支年度別推移表	12
幼い子どもと女性の自立のために当会を支えている人々と団体	
・2015年度 助成金・補助金を通じてご支援いただいている企業・団体、寄付者	13
・2015年度 みんなで布チョッキン実施団体、織物製品主要販売先	14
わたしたちの組織	
・会員数、寄付者数、役員、職員、活動履歴	15

## 活動概要



2015年度に教材・絵本7種・遊具（「みんなで布チョッキン」で製作した布ボール・人形）を配布し、保育者研修を実施した州



織物・染色研修、織物製品の展示・販売などを実施した州

- ① カンダール州カンダールスタン郡（バンキアン保育所、プレイタウ保育所、プラサート村の幼稚園、タブロム村の幼稚園）
- ② タケオ州 バティ郡（カンダール村の幼稚園、トロピエンクロライン村の幼稚園、ブンブノン村の幼稚園）
- ③ カンダール州 ルークダエク郡（カオム・ソムノルー村の幼稚園、カオム・サムノルークロム村の幼稚園、リアンチュー村の幼稚園）
- ④ カンダール州 アンスヌール郡（チュティール村の幼稚園）
- ⑤ カンダール州 キーンズバイ郡（スダオカンラエン・プラム村の幼稚園）
- ⑥ タケオ州トロピエンクラサン織物研修センター（織物研修実施地）
- ⑦ コンボンチャム州 アンコールバーン村（藍染め研修実施地）

### I カンボジア保育事業

より多くの子どもたちに保育を受ける機会を提供する「村の幼稚園」は、2015年に1村が加わった結果、合計で10ヶ所となった。2016年度には新たに2村に「村の幼稚園」を新設する予定であり、CYRでは今後この活動に力を注ぐ。

カンボジア政府と協力して実施している公立地域幼稚園への保育教材支援では、2015年度は絵本7種、357ヶ所に配布することができた。また、バンキアン・プレイタウ保育所の自立支援、都市スラムの保育所への豆乳配布は2016年度も継続、プノンベン市内のトロピエンズバイ小学校での朝食提供は2015年度をもって活動を終了した。



### II カンボジア織物事業

戦争で失われた伝統文化の復興を目指し、タケオ州の研修センターでこれまで行ってきた織物研修の成果として、2015年度には国立博物館にてピダン展を開催することができた。また、コンボンチャム州アンコールバーン村では、泥藍作り・藍染技術研修を実施し、製作した藍染製品を販売できるようになった。その一方で、販売部門では苦戦をしており、2016年度は抜本的な改革を検討する必要がある。



### III 日本国内事業

2015年度には、東日本大震災の被災地の子どもたちに飲料水と遊具を提供した。2016年度も同様の支援を続けるが、被災地を対象とした募金活動は終了する。また、2015年度「みんなで布チョッキン」の活動で賛同者を増やすことができたため、2016年度はこの活動を強化する。2017年版のCYRカレンダーは、引き続き高橋智史氏に写真をご提供いただく。



# 2015年度事業報告と2016年度事業計画

## ▶ I カンボジア保育事業

### 1. CYR 独自事業

#### バンキアン保育所・プレイタトウ保育所

食材自給により給食に係る費用を削減した上、保育者給与を賄うための協力金徴収を徹底して、開設から25年となる両保育園の自主運営を目指した。2016年1月の調査の結果、地区の保育所へのニーズが大きい一方で、現時点では自主運営に必要な経費を独自に賄うことが困難ということが明白となった。そのため、翌年度以降に両保育所、もしくはどちらか一方を「村の幼稚園」に移行することを決定し、2016年度はそのための準備を保育活動と並行して行う。



所在地	保育所名	開設年	園児数	保育者	給食
カンダール州	プレイタトウ保育所	1991年	31	3	朝・昼給食、おやつ、豆乳
	バンキアン保育所	1994年	27	3	

#### 村の幼稚園

2014年度までに開園した9ヶ所の村の幼稚園に加え、2015年度は新たに1ヶ所の村の幼稚園を開設した。プラサート村の幼稚園（2011年度開設）は自主運営に向けて、2016年3月でCYRによる運営支援を終了した。一方で、同年度開設のタブロム村の幼稚園は、自主運営に必要な資金が十分に集められなかったため、1年間の支援延長を決定した。新規に小学校の空き教室に開設したスタオカンラエン・プラム村の幼稚園では、トイレを建設するなど環境整備を行った。2016年度には新たに2村で村の幼稚園を開設する。



所在地	村の幼稚園名	開設年	園児数	保育者	補助給食	備考（2015年度）
カンダール州	プラサート	2011年	60	2	豆乳・おやつ	自主運営へ
	タブロム	2011年	20	1	豆乳・おやつ	保育者は村外から派遣
	リアンチュウ	2014年	30	1	豆乳・おやつ	
	カオム・ソムノルー	2014年	46	1	豆乳・おやつ	
	カオム・ソムノクロム	2014年	34	1	豆乳・おやつ	
	チュティール	2014年	23	1	豆乳・おやつ	
	スタオカンダエン・プラム	2015年	35	1	豆乳・おやつ	小学校内に設置、トイレ建設
タケオ州	カンダール	2013年	30	1	豆乳・おやつ	
	トロピエンクロライン	2013年	22	1	豆乳・おやつ	
	ブンボン	2013年	21	1	豆乳・おやつ	

## 2. 現地 NGO 支援事業

### カンボジア NGO 「ケマラ」

カンボジアの NGO である「ケマラ」が、プノンペンのスラムで運営を続けている保育所 9 ヶ所に栄養支援として、月 2 回 CYR の保育アシスタントが全ての保育所を回り、豆乳を配布した。2016 年度は新設の保育所 3 ヶ所へも豆乳を支援してほしいとの要請を受けたため、12 ヶ所の保育所を支援対象として事業を継続する。



所在地	保育所名	開設年	園児数	保育者	給食支援
プノンペン (スラム)	マタピアップ	2003 年	43	2	豆乳配布 (月 2 回モニタリング)
	スピエンクボ	2003 年	45	2	
	コー第 1	2007 年	60	2	
	第 2 村	2007 年	46	2	
	スパイパ	2008 年	46	2	
	ローコンバオ	2008 年	36	2	
	バン チューク	2014 年	42	2	
	ブサー レッチ	2014 年	48	2	
	ポーモンコル	2014 年	59	2	
	クバルコホ	2015 年	40	2	
	ロヴィア	2015 年	42	2	
	ロニアス	2015 年	35	2	

## 3. 教育省との共同事業

### 公立地域幼稚園

カンボジア政府は簡易な幼稚園である「公立地域幼稚園」を、2014 年からの 3 年間で全国に 1,000 ヶ所を開設する事業を推進している。CYR はこの事業に賛同し、2015 年度は 16 州 357 ヶ所の公立地域幼稚園を対象に保育者研修を実施、保育教材や遊具の提供を実施した。(これまでに計 641 ヶ所の公立地域幼稚園に対して、教材配布と保育研修を実施。)



## 4. その他の事業

### トロピエンスバイ小学校と 5 歳児クラス

都市スラムに暮らす子どもたちの栄養状態改善を目的に、在籍児童・幼児 777 名を対象に朝食と補助給食（豆乳とゆで卵）を提供した。近年、トロピエンスバイ村周辺で進む都市開発により、貧困層のみが住む地域でなくなった。給食を必要とする子どもが減ってきたことから、朝食の提供は 2015 年 7 月末、補助給食の提供は 2016 年 3 月末で完了した。



所在地	小学校名	開設年	児童数	給食支給	備考 (2015 年度)
プノンペン (スラム)	トロピエンスバイ	2005 年	777	朝食・補助給食 (豆乳・卵)	朝食 7 月終了、補助給食 3 月終了

## ▶ II カンボジア織物事業

### 1. 織物技術研修事業

#### 「伝統絹絵紺ピダン」研修

2015年度は「紺織り研修」をすでに修了した織り手4名を対象に、3ヶ月間の「伝統絹絵紺ピダン研修」を行った。2016年度も織り手の技術をさらに高めるため、既に技術を持っている織り手4名を対象に、同研修を継続して実施する。

#### 紺織り技術研修（タケオ州トロピエンクラサン織物研修センター）

研修センターに通うことが難しい織り手4名を対象に、講師派遣型の「紺織り研修」を3ヶ月の期間で実施する。研修は、新しい柄や色合わせの紺を実際に織りながら学ぶ実践型で行う。

#### 藍染め研修

2015年度には、コンボンチャム州アンコールバーン村で、藍染めグループ（7名）を対象に「泥藍作り・藍染技術研修」を実施した。2016年度も同様の研修を継続するとともに、染めた糸を織るための織物技術研修も実施する。村人が藍染めした糸を使って綿スカーフを織り、観光客へ販売することで収入向上を図る。また、藍染め製品の販売促進を目的に、村のボランティアに販売研修の機会を提供する。



© 高橋智史



研修内容（2015年度）	研修生	研修担当者	CYR職員
伝統絹絵紺ピダン研修（タケオ州織物研修センター）	4	3	7
藍染め研修（コンボンチャム州アンコールバーン村）	7	4	
タケオ州織物研修センター図書室	利用者：延 2,209 名		

#### 国立博物館でのピダン展開催

カンボジア国立博物館において、カンボジア伝統絹絵紺・ピダンの展示会を実施し、日本大使館より後援をいただいた。写真から復刻したピダンも展示して、国内外より訪れる来場者にカンボジアの伝統文化を紹介した。



## 2. カンボジアでの販売促進、事業費の確保

### ピダंकメール（プノンベン事務所併設のショップ）

2015年度と同様、2016年度も季節の行事に合わせたセールや、観光産業とのタイアップで、集客を伸ばせるように努める。2016年度には、新たな試みとして「染めの実演・ワークショップ」を実施する。

### 出張販売

需要を掘り起こすための、カンボジア国内での各種イベントや、バンコクでの展示会への出展は、2015年度に引き続き2016年度も継続する。

### 委託販売・特別注文

2015年度はカンボジア国内6ヶ所での委託販売を実施した。また、国外の企業や団体より、財布などの小物や帯の特別注文を受けて製作・販売した。2016年度の委託販売先は4ヶ所に縮小するが、国内外からの特別注文の獲得に注力する。

## ▶ III 国内事業

### 1. 東日本大震災被災地支援

- ・2015年度は、福島県「やまゆり保育所」に毎月240ℓの天然水、宮城県「おおぞら保育園」へ手作り遊具5種を届けた。これらの支援は2016年度も継続する。
- ・保育現場へのヒアリングを継続し、新たな需要があった際には支援を行う方針ではあるが、2016年度で被災地支援への募金活動はいったん終了する。



### 2. ファンドレイジング（資金調達）

2015年度は、保育関係者向けの広報資料を使った賛同の呼びかけや、クラウドファンディングへの挑戦など、新たな資金調達手法を試みた。2016年度には、用途を「給食とおやつ」と明確にした募金活動を行うことで、支援者が募金を始めやすい環境を整える。



### 3. 広報事業

#### ニュースレター・年次報告書

2015年度は、年次報告書のほか、35周年特別号を含めてニュースレターを計4回発行した。2016年度は年次報告書とニュースレターを年3回、発行する予定である。

#### 活動報告会の実施

2015年5月に活動報告会を実施した。カンボジア事務所長に就任したチャン・スレイが「カンボジア事務所長としての抱負と当会の今後の方針」を、カンボジア事務所顧問の関口晴美が「これまでの35年の活動」について報告をした。2016年度は「難民キャンプからの出発」をテーマに報告会を実施する。



### 「みんなで布チョッキン」

2015年度は、企業・団体の参加は65件、個人参加者は延べ59名であった。カンボジアへ人形928体分、ボール3,636個分の布を届けた。また、使用する布も企業やボランティアの方々からご提供いただいた。2016年度は活動をさらに広めるため、ニュースレターやインターネットを用いて積極的に広報活動を行う。

### ホームページ、フェイスブック等

ホームページ、フェイスブックともに更新頻度を上げるとともに、カンボジアの文化や慣習を紹介する内容を加えた結果、ホームページへのリーチ数がこれまでの2倍以上となった。2016年度は、ウェブ上でさらに頻繁に情報発信を行い、より広い地域・年齢層の方々に活動を知ってもらえるようにする。

### カレンダー製作と販売

2016年カレンダーは、「カンボジアの子どもたち」をテーマに、高橋智史氏の写真で678部を販売した。引き続き高橋智史氏にご協力いただき、2017年カレンダーを製作する。



## 4. 織物販売

2015年度は「タチカワブラインド銀座スペースオット」にてピダン展を開催した他、委託販売(17件)、出張販売(8件)を実施した。2016年度は、在庫商品のクリアランスに力を入れる。また、展示会や出張販売など、事務所外での販売も積極的に行っていく。

## 5. その他

ボランティアデーを毎週水曜日、第1・第3土曜日とし、受け入れ体制を整えた。ボランティアの延べ人数は247名、総作業時間は988時間となった。2016年度も同様に、広くボランティアへの参加を呼びかける。





# 2015年度 数字とグラフで見る 幼い難民を考える会

## ▶ 活動計算書（要約）

（自2015年4月1日 至2016年3月31日）

（単位：千円）

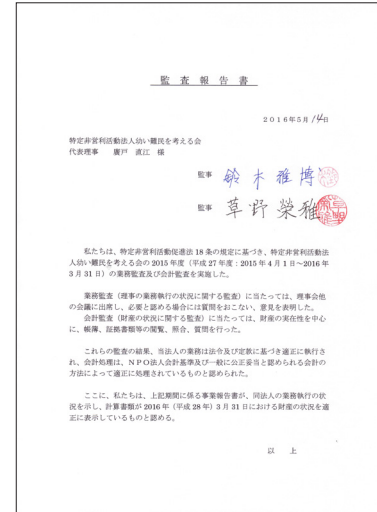
科目	2014年度決算	2015年度決算	増減	2016年度予算
<b>I 経常収支</b>				
1 会費収入	1,949	1,906	△ 43	1,530
2 寄付収入	24,180	20,965	△ 3,215	16,328
3 事業収入	10,919	11,733	814	10,051
4 補助金収入	5,589	3,899	△ 1,690	9,302
5 その他収入	1,196	1,025	△ 171	5,000
経常収益計	43,833	39,529	△ 4,304	42,211
<b>II 経常費用</b>				
1 事業費				
(1) 人件費	18,961	18,845	△ 116	14,812
(2) その他経費	20,518	16,361	△ 4,157	14,036
事業費計	39,479	35,207	△ 4,272	28,848
2 管理費				
(1) 人件費	6,896	6,988	92	3,748
(2) その他経費	7,401	4,673	△ 2,728	4,851
管理費計	14,297	11,661	△ 2,636	8,599
経常費用計	53,776	46,868	△ 6,908	37,447
当期経常増減額	△ 9,943	△ 7,338	2,605	4,764
<b>III 経常外収益</b>				
1 その他収益	2,990	0	△ 2,990	0
経常外収益計	2,990	0	△ 2,990	0
<b>IV 経常外費用</b>				
1 その他費用	1,865	0	△ 1,865	0
経常外費用計	1,865	0	△ 1,865	0
当期正味財産増減額	△ 8,818	△ 7,338	1,480	4,764

## ▶ 貸借対照表（要約）

2016年3月31日現在

（単位：千円）

科目	金額
<b>I 資産の部</b>	
流動資産	33,065
固定資産	1,025
資産合計	34,090
<b>II 負債の部</b>	
流動負債	146
固定負債	5,219
負債合計	5,364
<b>III 正味財産の部</b>	
前期繰越正味財産	36,065
当期正味財産増減額	△ 7,339
正味財産合計	28,726
負債及び正味財産合計	34,091

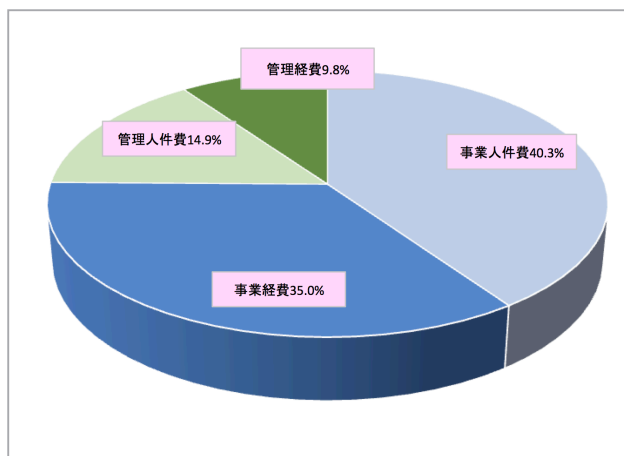
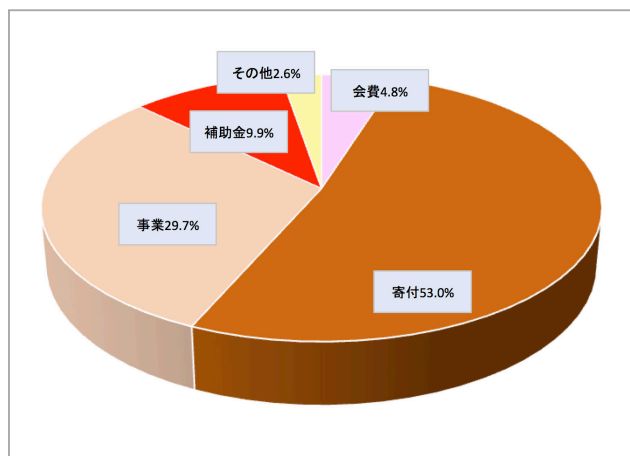
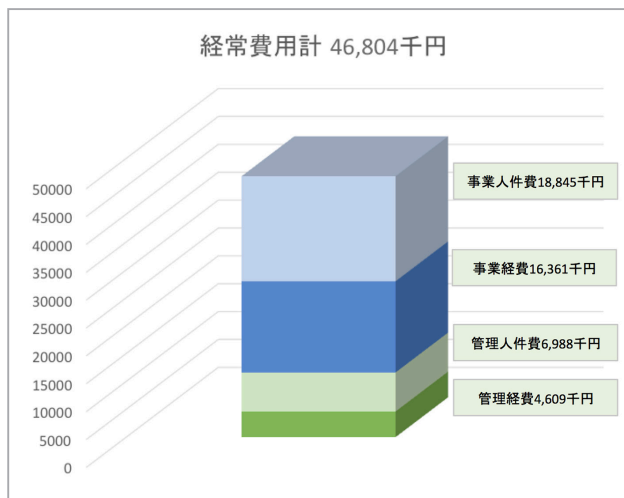
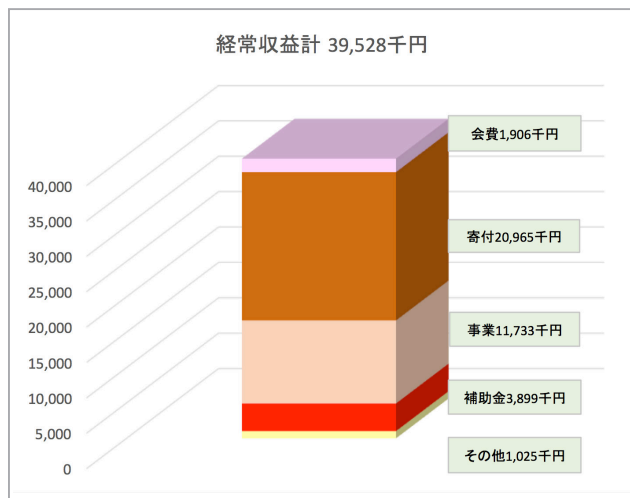


- 2015年度の会費収入は、前年度比43千円のマイナス、予算との比較ではマイナス94千円となった。会員数が11名減少した他、滞納会費の徴収をできなかったことが大きな要因である。
- 2015年度の寄付金収入は、前年度からマイナス3,215千円となった。前年度末にあった遺贈金寄付3,000千円を考慮した場合、通常寄付は215千円の微減、予算との対比では165千円のプラスとなっている。
- 織物展示会を開催した他、販路拡大に積極的に取り組んだことから、織物の委託販売が前年に比較して約1,100千円増加した。その結果、2015年度事業収入は、前年比814千円のプラスとなった。
- 2015年度の補助金収入は3,899千円、前年比で1,690千円の減少、予算との比較でも301千円の減少となった。理由としては、織物研修への助成が終了したこと、保育事業への助成金が減額したことが挙げられる。
- 2016年度の会費、寄付金収入は、前年度実績の約80%で計上している。補助金収入については、既に助成が決まっている助成金に加え、今後申請予定の補助金・助成金が取れる可能性を考慮した上で算出している。
- ピダンは2014年度棚卸資産として計上したが、2015年度に於いては、時価の下落を考慮して除外した。
- 2015年度の経常費用は、前年に比較して6,972千円減少した。東京事務所の移転に伴い事務所家賃を抑えられたことに加え、初期投資が必要な「村の幼稚園」の開設が1村に限られるなど、事業を縮小したことが主な要因となっている。

## ▶ 2015年度 収入・費用の内訳

収入

支出



## ▶ 2015年度事業部門別 活動計算書

(自2015年4月1日 至2016年3月31日)

(単位:円)

科目	合計	カンボジア事業			国内事業			管理
		保育	織物研修	織物販売	広報	織物販売	震災	
<b>I 経常収益</b>								
会費収入	1,906	0	0	0	0	0	0	1,906
寄付収入	20,965	9,346	35	0	0	0	1,386	10,199
事業収入	11,733	61	2	8,176	653	2,659	0	183
補助金収入	3,899	3,241	658	0	0	0	0	0
その他収入	1,025	0	0	0	0	0	0	1,025
<b>経常収益計</b>	<b>39,529</b>	<b>12,648</b>	<b>695</b>	<b>8,176</b>	<b>653</b>	<b>2,659</b>	<b>1,386</b>	<b>13,313</b>
<b>II 経常費用</b>								
人件費計	25,833	7,170	2,702	3,644	3,356	1,622	351	6,988
その他の経費計	21,035	6,315	1,950	6,235	418	1,336	108	4,673
<b>経常費用計</b>	<b>46,868</b>	<b>13,485</b>	<b>4,652</b>	<b>9,879</b>	<b>3,774</b>	<b>2,958</b>	<b>459</b>	<b>11,661</b>
当期正味財産増減額	△ 7,339	△ 837	△ 3,957	△ 1,703	△ 3,122	△ 299	927	1,652
前期繰越正味財産額	36,065	0	0	0	0	0	0	36,065
次期繰越正味財産額	28,726	△ 837	△ 3,957	△ 1,703	△ 3,122	△ 299	927	37,717

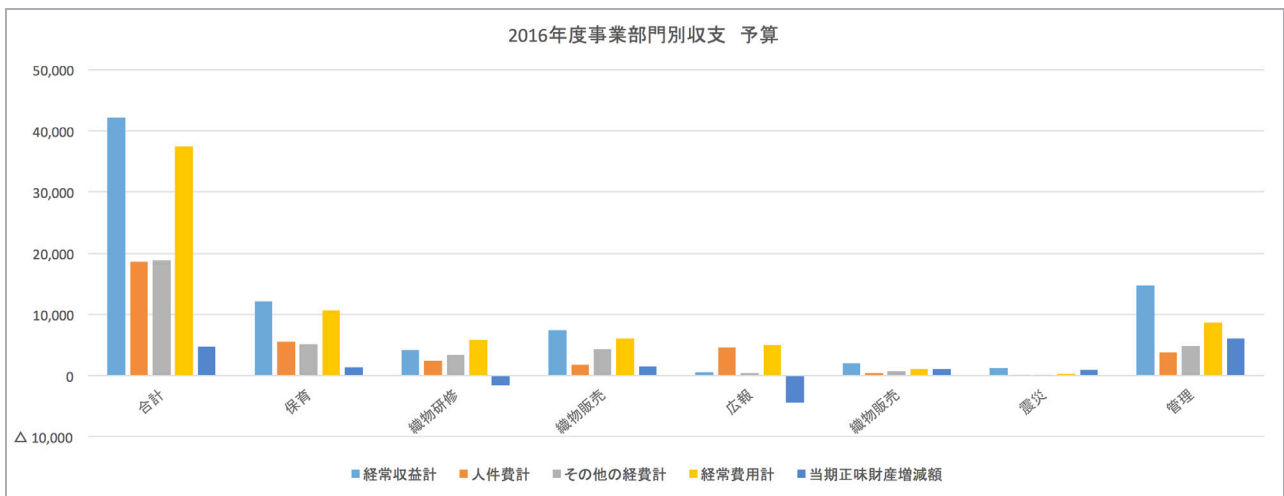
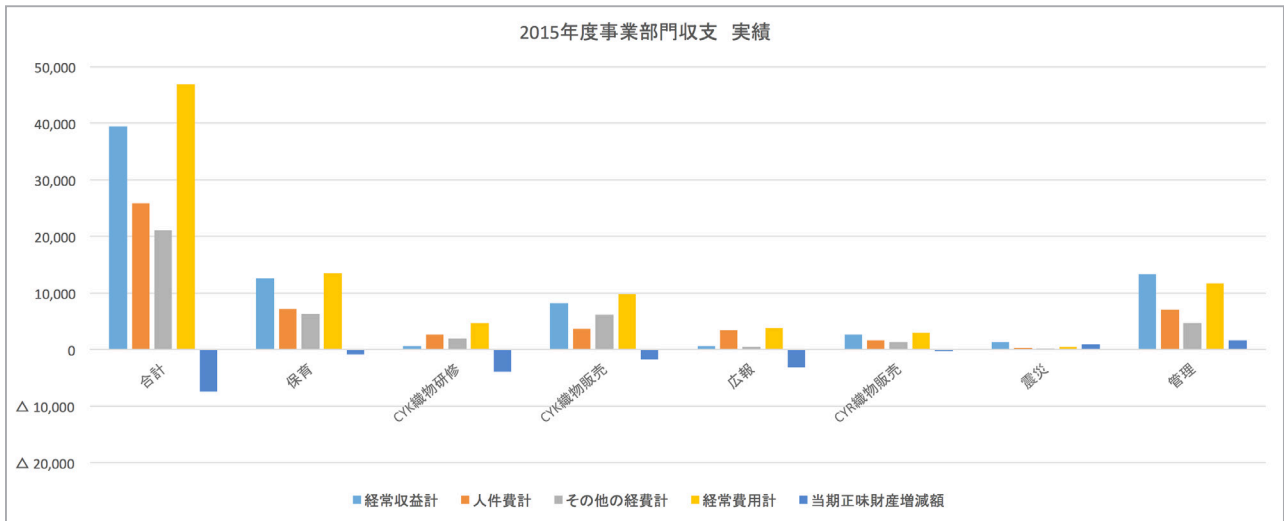
## ▶ 2016 年度事業部門別 活動予算書

(自 2016 年 4 月 1 日 至 2017 年 3 月 31 日)

(単位：円)

科目	合計	カンボジア事業			国内事業			管理
		保育	織物研修	織物販売	広報	織物販売	震災	
<b>I 経常収益</b>								
会費収入	1,530	0	0	0	0	0	0	1,530
寄付収入	16,328	7,072	0	0	0	0	1,123	8,133
事業収入	10,051	0	0	7,467	538	2,046	0	0
補助金収入	9,302	5,000	4,161	0	0	0	141	0
その他収入	5,000	0	0	0	0	0	0	5,000
<b>経常収益計</b>	<b>42,211</b>	<b>12,072</b>	<b>4,161</b>	<b>7,467</b>	<b>538</b>	<b>2,046</b>	<b>1,264</b>	<b>14,663</b>
<b>II 経常費用</b>								
人件費計	18,560	5,533	2,407	1,748	4,640	363	121	3,748
その他の経費計	18,887	5,166	3,401	4,271	379	659	160	4,851
<b>経常費用計</b>	<b>37,447</b>	<b>10,699</b>	<b>5,808</b>	<b>6,019</b>	<b>5,019</b>	<b>1,022</b>	<b>281</b>	<b>8,599</b>
当期経常増減額	4,764	1,373	△ 1,647	1,448	△ 4,481	1,024	983	6,064
当期正味財産増減額	4,764	1,373	△ 1,647	1,448	△ 4,481	1,024	983	6,064
前期繰越正味財産額	28,726	0	0	0	0	0	0	28,726
次期繰越正味財産額	33,490	1,373	△ 1,647	1,448	△ 4,481	1,024	983	34,790

## ▶ 2015 年度事業部門別活動計算書 / 2016 年度事業部門別活動予算書 比較

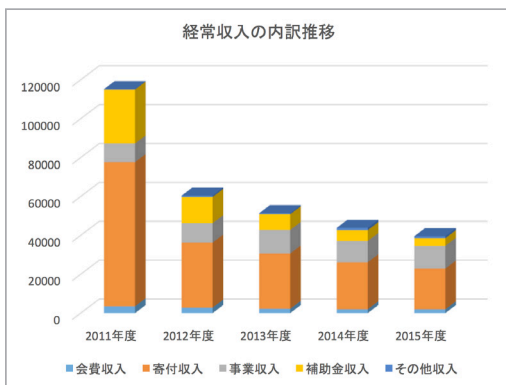


## ▶ 活動収支年度別収支表

(自 2015 年 4 月 1 日 至 2016 年 3 月 31 日)

(単位：千円)

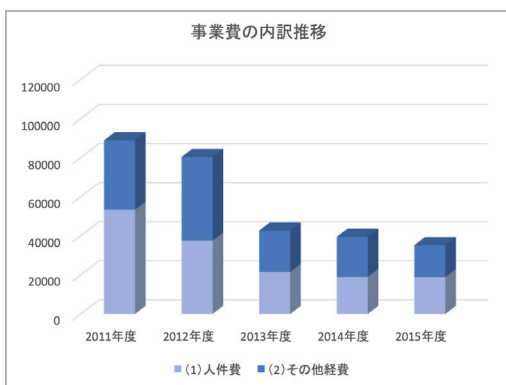
科目	2011 年度決算	2012 年度決算	2013 年度決算	2014 年度決算	2015 年度決算
<b>I 経常収支</b>					
1 会費収入	3,476	2,803	2,171	1,949	1,906
2 寄付収入	74,182	33,457	28,479	24,180	20,965
3 事業収入	9,549	9,959	12,079	10,919	11,733
4 補助金収入	27,757	13,520	8,103	5,589	3,899
5 その他収入	217	655	517	1,196	1,025
経常収益計	115,181	60,394	51,349	43,833	39,529
<b>II 経常費用</b>					
1 事業費					
(1) 人件費	53,385	37,504	21,452	18,961	18,845
(2) その他経費	35,498	42,846	21,213	20,518	16,361
事業費計	88,883	80,350	42,665	39,479	35,207
2 管理費					
(1) 人件費		12,459	7,985	6,896	6,988
(2) その他経費	6,779	6,811	6,008	7,401	4,673
管理費計	6,779	19,270	13,993	14,297	11,661
経常費用計	95,662	99,620	56,658	53,776	46,868
当期経常増減額	19,519	△ 39,226	△ 5,309	△ 9,943	△ 7,339
<b>III 経常外収益</b>			3,883	1,125	
当期正味財産増減額	19,519	△ 39,226	△ 1,426	△ 8,819	△ 7,339
前期繰越正味財産額	66,017	85,536	46,310	44,884	36,065
次期繰越正味財産額	85,536	46,310	44,884	36,065	28,726



### 経常収入の内訳推移

東日本大震災が起きたことにより、2011 年度には多くの募金が集まり、寄付収入が 74 百万円と多額にあったが、震災から時が経過するにつれて、2012 年度 33 百万円、2013 年度 28 百万円、2014 年度 24 百万円、2015 年度 21 百万円と減少している。

補助金収入も 2011 年度は増加したが、減少傾向にある。この結果、経常収支全体でも、増加した 2011 年度の 115 百万円から、2012 年度 60 百万円、2013 年度 51 百万円、2014 年度 44 百万円、2015 年度 40 百万円と減少している。



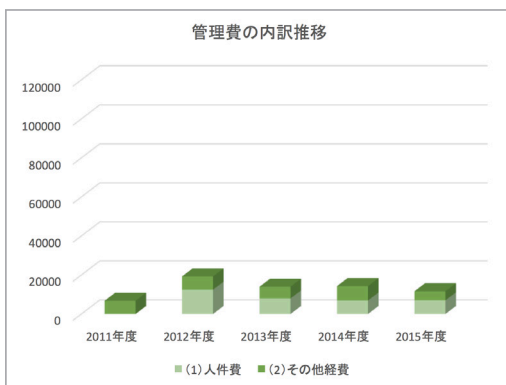
### 事業費の内訳推移

2011 年度の震災募金による収入増加に呼応して事業費は増加した。

ただし、2011 年度は震災で増加した収入を当該年度ですべて事業活動に投入できず、2011 年度は約 20 百万円正味財産が増加した。

2012 年度は、収入の減少にもかかわらず前年度の事業拡大による人員体制をほぼそのまま継続し、事業費人件費率が 2012 年度 62.1% に上昇した。(この期から管理費にも人件費を振分けている。) このため、2012 年度人員体制の見直しを行ったほか、2013 年度中に退職者もあり 2013 年度の事業費人件費率は、41.8% に低下した。

2014 年度には事業費人件費は減少したが、収入の減少が大きく事業費人件費率は 43.3% と若干上昇、2015 年度も事業費人件費は前年を維持したが、収入減の影響で 47.7% とさらに上昇した。



### 管理費の内訳推移

2012 年度から人件費の一部を管理費として計上している。2012 年度の事業費と管理費を合わせた人件費は、2011 年度の 53 百万円とほぼ変わらない 50 百万円弱である。2014 年度の管理費は東京事務所の引越費用の負担があり微増した。

経常収入が 2011 年度の 115 百万円から 2012 年度 約 60 百万円へ約 55 百万円減少し、人件費支出を賄いきれず、2012 年度は、約 39 百万円の正味財産の減少となっている。2013 年度は、期中で退職者が 3 名いたこと及び新規採用者の給与ベースの引下げにより、人件費は前年度比大幅減となった。2014 年度、2015 年度とも、寄附金等の経常収入の減少が大きく、大幅赤字となった。

## 幼い子どもと女性の自立のために当会を支えている人々と団体

### ▶ 2015年度 補助金・助成金を通じてご支援いただいている企業・団体

- 独立行政法人郵便貯金・簡易生命保険管理機構（国際ボランティア貯金寄附金配分事業） -----1,741,248 円
- 日本労働組合総連合会 -----1,500,000 円
- Friends of Khmer Culture -----657,626 円
- 自治労福岡県本部 -----700,000 円

### ▶ 2015年度 寄付者（寄付金 10万円以上の団体）（50音順）

- ILBS 国際福祉協会
- アクセンチュア株式会社
- 味の素株式会社
- あすてボランティア
- 株式会社一五不動産情報サービス
- 特定非営利活動法人 WE21 ジャパン厚木
- 特定非営利活動法人 WE21 ジャパンざま
- 特定非営利活動法人 WE21 ジャパンたま
- 枝光学園幼稚園
- 幼い難民を考える会チャリティ・バザーグループ
- 花王ハートポケット倶楽部
- CANTATE DOMINO
- キューピー株式会社
- ゴールドマン・サックス証券株式会社
- 自治労大分県本部
- 自治労福岡県本部
- 聖心女子大学同窓会 宮代会
- 全国友の会
- 東京海上日動あんしん生命保険株式会社
- 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社
- 百観音明治寺花まつりコンサート実行委員会
- 丸紅株式会社
- 三井住友海上保険株式会社 MS&AD ゆにぞんスマイルクラブ
- 三菱商事株式会社

(2015/4/1 ~ 2016/3/31 入金分を記載しています。)

## ▶ 2015年度 みんなで布チョッキン（団体のみ）（50音順）

### 実施団体（実施場所）

- ・ アクセンチュア株式会社（神奈川県）
  - ・ 特定非営利活動法人 WE21 ジャパン旭（神奈川県）
  - ・ 特定非営利活動法人 WE21 ジャパン港南（神奈川県）
  - ・ 特定非営利活動法人 WE21 ジャパンほどがや（神奈川県）
  - ・ 特定非営利活動法人 WE21 ジャパンざま（神奈川県）
  - ・ 特定非営利活動法人 WE21 ジャパン大和（神奈川県）
  - ・ オートデスク株式会社（東京）
  - ・ 教覚寺女性の会（静岡）
  - ・ ゴールドマン・サックス証券株式会社（東京）
  - ・ サントリーホールディングス株式会社（東京）
  - ・ 全日本自治団体労働組合大分県本部（大分）
  - ・ 全日本自治団体労働組合神奈川県本部（神奈川県）
  - ・ 東京海上日動火災株式会社（大阪・東京）
  - ・ 株式会社東京海上日動キャリアサービス（東京）
  - ・ 東南アジア保育支援の会（東京）
  - ・ 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（東京）
  - ・ 日本福祉大学附属高等学校国際協力部（愛知）
  - ・ ハンモックツリー（愛知）
  - ・ 丸紅株式会社（東京）
  - ・ 三井住友海上火災保険株式会社 MS&AD ゆにぞんスマイルクラブ（東京）
  - ・ 株式会社三井住友銀行（東京）
  - ・ 三菱商事株式会社（東京）
  - ・ UBS 証券株式会社（東京）
  - ・ 横浜雙葉高等学校（神奈川県）
- (2015/4/1 ~ 2016/3/31 入金分を記載しています。)

### 実施協力団体名

- ・ 公益社団法人日本フィランソロピー協会
  - ・ 東京ボランティア・市民活動センター
- (2015/4/1 ~ 2016/3/31 入金分を記載しています。)

## ▶ 2015年度 織物製品主要販売先（団体のみ）（50音順）

### 団体名（所在・販売形態）

- ・ 株式会社アートダイジェスト（東京・委託）
  - ・ 特定非営利活動法人 WE21 ジャパンなか（神奈川県・委託）
  - ・ 特定非営利活動法人 WE21 ジャパン都筑（神奈川県・委託）
  - ・ 株式会社嘉門工藝（東京・委託）
  - ・ ギャラリー TAO（広島・委託）
  - ・ 株式会社グローバルアライアンス（東京・買取）
  - ・ ジェイ・クメール（シエムリアップ・委託）
  - ・ 全日本自治団体労働組合千葉県本部（千葉・買取）
  - ・ 聖心インターナショナルスクール（東京・委託）
  - ・ ソカ・アンコール・リゾート・ホテル（シエムリアップ・委託）
  - ・ ソカ・ホテル（プノンペン・委託）
  - ・ ゾナゾナクラブ（奈良・委託）
  - ・ 株式会社ソフトバンク（東京・出張）
  - ・ 東京ボランティア・市民活動センター（東京・出張）
  - ・ 東京未来大学（東京・委託）
  - ・ 東慶寺ギャラリー & ショップ（神奈川県・委託）
  - ・ ニョニウム（プノンペン・委託）
  - ・ ハンモックツリー（愛知・委託）
  - ・ 百観音明治寺（東京・出張）
  - ・ ひろきや（広島・委託）
  - ・ 株式会社細尾（京都・買取）
  - ・ 三菱商事株式会社（東京・出張）
  - ・ 横浜雙葉高等学校（神奈川県・委託）
  - ・ UBS 証券株式会社（東京・出張）
  - ・ ル・メリディアン・アンコール（シエムリアップ・委託）
- (2015/4/1 ~ 2016/3/31 入金分を記載しています。)

# わたしたちの組織

## ▶ 会員数

内訳	2010年3月末	2011年3月末	2012年3月末	2013年3月末	2014年3月末	2015年3月末	2016年3月末
個人	400	370	339	342	339	340	328
団体	7	6	6	6	9	8	9
学生	12	15	15	10	3	3	3
計	419	391	360	358	351	351	340
賛助会員	52	47	45	(注) 2012年6月より賛助会員の制度は廃止しました。			

## ▶ 寄付者数

	2010年3月末	2011年3月末	2012年3月末	2013年3月末	2014年3月末	2015年3月末	2016年3月末
計	622	541	2,018	1,389	537	479	452
				個人	428	370	357
				団体	109	109	95

## ▶ 役員

2016年3月末現在

代表理事	廣戸 直江
副代表理事	山極 小枝子
理事	太田 真一
理事	米倉 雪子
理事	チャン・スレイ
監事	鈴木 雅博
監事	草野 榮雅

## ▶ 職員

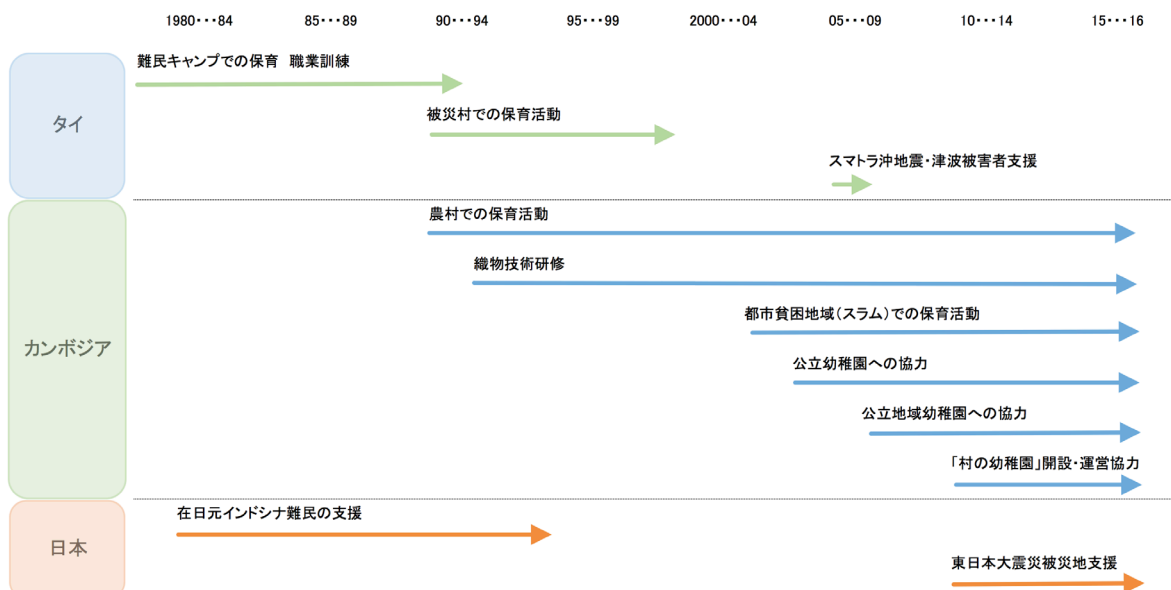
2016年3月31日現在

東京事務局：5名（事務局長 鎌田 苑子）  
カンボジア事務所：9名（所長 チャン・スレイ）

2016年4月1日現在

東京事務局：3名（事務局長 鎌田 苑子）  
カンボジア事務所：11名（所長 チャン・スレイ）

## ▶ 活動履歴



# 幼い難民を考える会の理念

幼い難民を考える会、その原点「カオイダン難民キャンプ」から36年。  
掲げる「理念」は、私達の活動の根幹として変わることなく受け継がれている。

## Children, Our Future

今日の子どもの幸せが、明日の平和な世界へつながります。

1980年、内戦により難民となったカンボジアの子どもたちがタイ国境の難民キャンプの恵まれない環境のなかで少しでも人間らしい環境と必要な配慮のもとで暮らせるようにとの願いから、幼い難民を考える会（CYR）の活動は始まりました。

難民キャンプ閉鎖後は、復興をめざすカンボジアの農村で子どもたちが安心して暮らせる環境づくりと女性の自立を支援する活動に取り組んでいます。

会の名前を「難民の子ども」ではなく「幼い難民」としたのは、子どもという独立した人格を尊重する立場から、子どもたちの成長が守られて初めて、祖国を逃れてきた人たちの、あるいは、その国の自立の問題に結びつくと考えたからです。

また、「考える会」としたのは、助けるという意識がしばしば相手の自立を侵したり、相手を管理する体制に陥りがちであることを認識し、難民問題をいろいろな側面から考えていきたいという会の基本姿勢に根ざしています。

私たちはこれからも、さまざまな理由により厳しい境遇に置かれている子どもたちの健全な成長を支援し、その保護者たちが人間らしい生活環境のもと自立できることを

めざしてひとつひとつの小さな積み重ねを大切にしていきます。

そのことが、難民を生み出さない、明日の大きな平和を創る力となることを、信じています。



### ■ 東京事務局

〒110-0016  
東京都台東区台東 1-12-11 青木ビル 2A  
TEL: 03-6803-2015  
Email: info@cyr.or.jp  
URL: <http://www.cyr.or.jp>

### ■ プノンペン事務所 -Pidan Khmer 併設-

#170, St.63 Preah Trasak Paem, Sangkat Boeng  
Keng Kong I, Khan Channkarmon Phnom Penh,  
Cambodia  
TEL: +855-23-210849  
Email: info@cyk.org.kh  
URL: [www.cyk.org.kh](http://www.cyk.org.kh)

### ■ プノンペン事務所地図



幼い難民を考える会（CYR）は、難民となったカンボジアの子どもたちがけんめいに生きようとする姿に触発され、1980年に設立されました。子どもたちが心身ともに健全に成長し、その親たちが人間らしい生活環境のもとで自立できることが、難民を出さない平和な社会につながることを信じ、復興を目指すカンボジアで活動を続けています。その経験を、東日本大震災の被災地支援活動でも活かしています。

2015年度年次報告書 2016  
発行日：2016年7月 発行所：廣戸直江